

2012年(平成24年)の貧酸素水塊(まとめ)

2012年の貧酸素水塊の分布およびその規模を図1～図3に示します。

貧酸素水塊の初確認は4月24日で、これはほぼ例年並みでした。

8月になると内湾北部のほぼ全域がDO1ml/L以下になり、この状態が9月末まで継続しました。このため貧酸素水塊の規模は2か月にわたり高い状態を示しました。例年は、台風などにより底層の貧酸素化が一時的に解消されますが、今年と比較的穏やかだったため、強い攪拌が起きず、貧酸素水塊が底層に保持されるとともに硫化物が次第に蓄積していったと推測されます。

9月下旬から北風が吹き始めると、貧酸素水塊と蓄積した硫化物が湾奥へ移動し表層へ上昇したため青潮が発生しました。この青潮は発生海域、期間いずれも非常に大規模なものとなり、三番瀬では漁業被害も発生しました。

一方、青潮時に貧酸素水塊が表層へ放出されたため、多くの海域では例年より早めに貧酸素水塊が解消しました。

千葉県水質保全課によると、青潮は3回発生しました(5月23日～5月25日、6月13日～14日、9月23日～10月1日)。

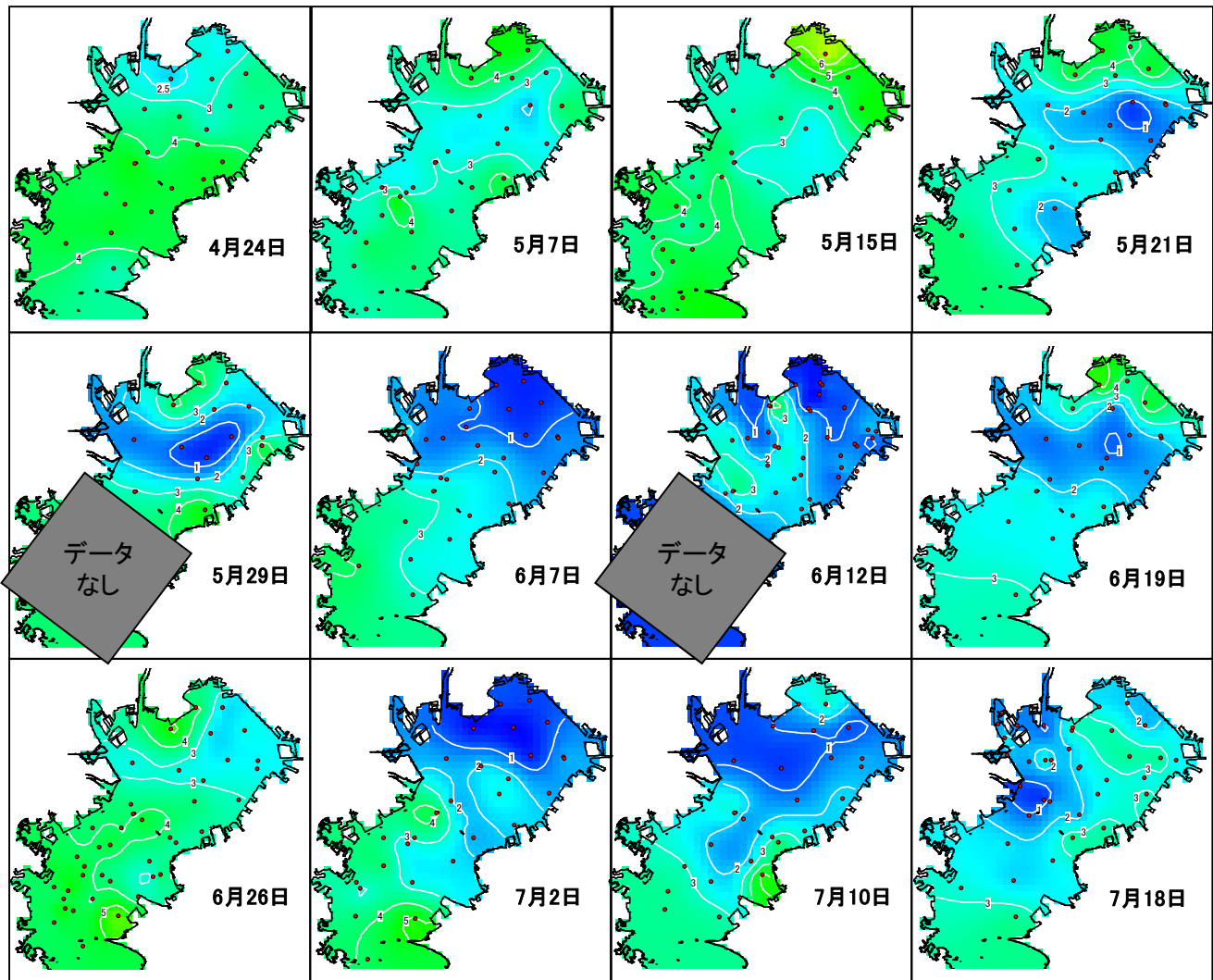


図1 底層の貧酸素水塊の分布

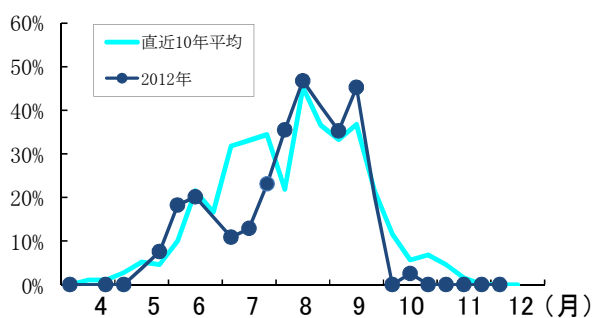
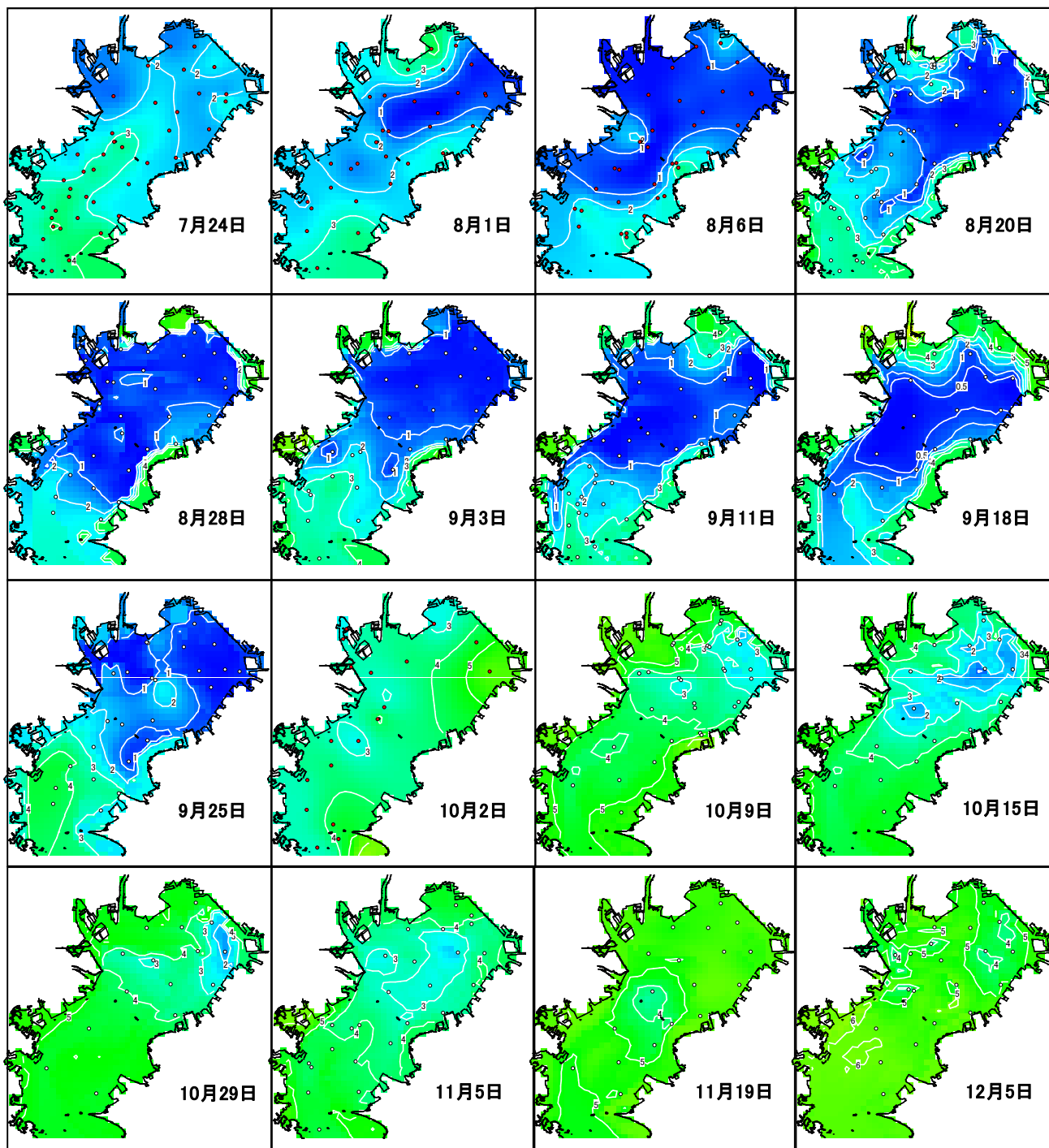


図2 貧酸素水塊の規模

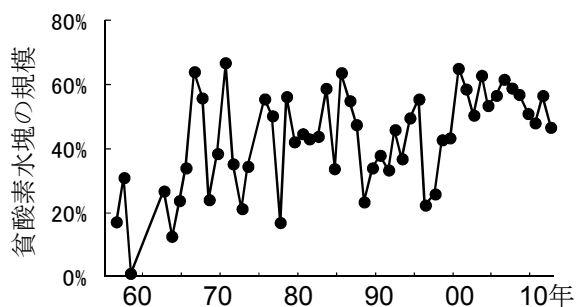


図3 年間最大規模の経年変化 (1955年～2012年)